

授業研究デザインシートについての説明

秋田県総合教育センター

授業研究デザインシートは、学校において授業研究会を立案する際に、より効果的に自校に合った計画とすることを目的として、秋田県総合教育センタープロジェクト研究1が平成20年度に開発したものです。ここでは、このシートの補足事項について説明します。

1 授業研究会の事前準備について

- 1 授業研究会の事前準備について選択してください。(複数選択可)
- A 授業者(その他)による授業構想と指導案の作成
 - B 授業構想段階からの事前検討会
 - C 授業者が作成した指導案についての事前検討会
 - D 今回の授業研究会の目的と授業者・参観者の留意事項についての事前説明会

授業者が単独で指導案を作成するよりも、事前に指導案の検討を加えることで、より適切なものすることができます。また、研究協議に参加する教員が授業構想や指導案作成の段階から協力していくことで、研究協議での深まりや同僚性の高まりを期待できます。更に、研究協議で指摘される課題についても自らの課題としてとらえやすくなることが期待できます。

2 授業研究会における教科の扱いについて

- 2 授業参観や授業研究会での教科の扱いについて選択してください。
- A 教科別に実施
 - B 教科を越えて実施 ※より多様な視点での研究協議が期待できます。

授業研究会における協議内容は、教科の特質に係ることだけではありません。教科の専門以外の教員の意見がとても大切です。

3 授業参観について

- 3 授業参観の形態について選択してください。
- A 実際の授業参観
 - B 模擬授業 ※授業者以外の先生方は児童生徒役となります。
 - C 授業ビデオライブラリの視聴 ※当センターが所有する授業のビデオ
※校種・教科が限定されます。
 - D 学校授業ビデオの視聴 ※事前に撮影していただくことになります。

実際の授業を参観する場合は、その参観者の人数が制限されます。また、授業参観以外の学級での授業者も必要となり、時間割編成上も制約を受けます。そこで、授業ビデオを活用することも効果が期待できます。

児童生徒の視点で研究協議を行う場合は、教員が児童生徒役となる模擬授業も効果があります。

4 授業評価シートについて

4 授業評価のための記入シートについて選択してください。(複数選択可)

A 授業参観における教員による授業チェックシート

B 児童生徒による授業評価シート

C 不要 (理由: _____)

授業参観の際に、より客観的に授業を評価するために授業評価シートを活用することもできます。また、児童生徒の視点も大切ですので、児童生徒による授業評価を併用することでより客観性の高い評価が可能となります。

5 研究協議について

5 研究協議の形態について選択してください。(複数選択可)

A 全体会での研究協議

B シンポジウム形式研究協議 ※複数の視点でのグループ別協議となります。

C ワークショップ型研究協議 ※同じ視点でのグループ別協議となります。

※ワークシートの種類も選択してください。(複数選択可)

ア 時系列シート イ 概念化シート ウ マトリクス法

エ 指導案拡大法 オ フリーシート カ その他 (_____)

これまでの授業研究会では全体会での研究協議が主流でしたが、発言しづらいなどの欠点もありました。そこで、教科別や学年別、課題別の小グループを作成し、小グループでの協議を取り混ぜることで研究協議を活性化することができます。

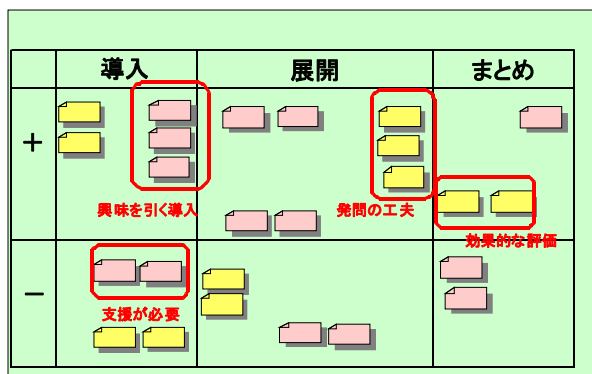
グループごとに異なる協議の視点や協議題を指定することで、その後に実施する全体会をシンポジウム形式とすることもできます。

更に、付箋紙を用いたワークショップ型研究協議とすることで、より効果が期待できます。付箋紙を用いたワークショップ型研究協議の場合は、次のような様々なワークシートがあり、学校の実態や目的に合ったものを選択することになります。

また、このデザインシートには選択肢がありませんが、他校の教員を招くことでさらに研究協議の活性化を期待できます。

ア 時系列シート

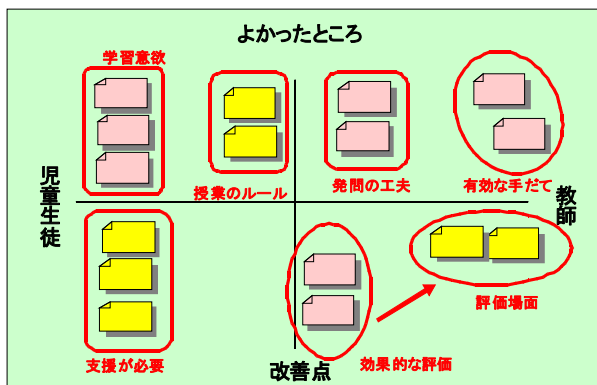
時系列シート



時系列シートは、授業全体の流れに注目して協議を進める場合に効果的となる。成果と課題も明確にできる。

イ 概念化シート

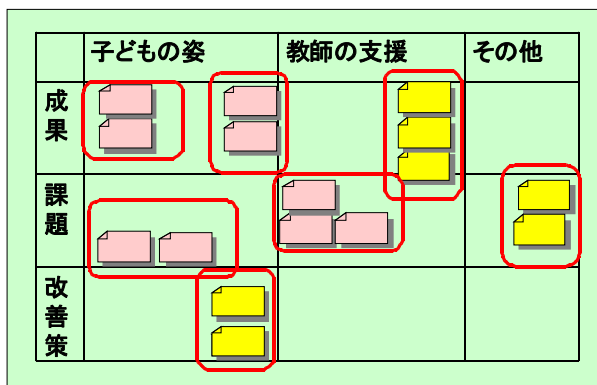
概念化シート



概念化シートは、あらかじめ協議の視点を定めて、その視点に集中して成果と課題を協議したい場合に向いている。

ウ マトリクス法

マトリクス法

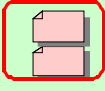
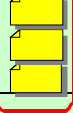
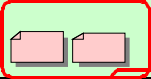

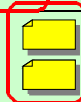
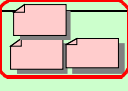


マトリクス法も、あらかじめ協議の視点を定めて、その視点に集中して成果と課題を協議したい場合に向いている。付箋を貼り付ける枠が固定されているので、経験が少ない教員でも取り組みやすい。

エ 指導案拡大法

指導案拡大法

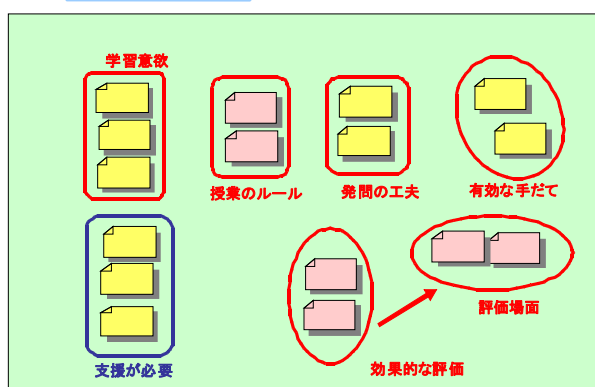
本時のねらい

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入			
展開			
終末			

指導案拡大法は、あらかじめ拡大コピーしておいた本時案に直接、付箋を貼る手法である。指導案と実際の授業を対比しながら進めるような研修に向いている。

オ フリーシート

フリーシート



フリーシートは、付箋紙を活用したワークショップとしては、最も自由度の高い手法となる。経験者がひとりでもいれば、グルーピングや階層化なども進めやすい。

6 指導助言について

- 6 授業研究会での指導助言者について選択してください。(複数選択可)
- A 管理職 (校長, 教頭, その他)
 - B 教員 (研究主任, 研修主任, 教科(学科)主任, 教諭, その他)
 - C 外部講師 (大学教授, 指導主事, その他)
 - D 不要 (理由: _____)

外部講師を招くことで、効果的に研究協議をまとめることができます。しかし、外部講師頼りすぎてしまい、協議の視点がぼやけてしまう可能性もあります。

7 研究協議のまとめ方について

- 7 研究協議でのまとめ方について選択してください。(複数選択可)
- A 司会者が指導助言者がまとめる
 - B 司会者がキーオピニオン (大切な意見) をまとめる。
 - C グループごとにキーオピニオンを発表し、全体で絞り込む。
 - D 今後の授業改善について実践事項をまとめる。
 - E その他 (_____)

授業研究会の司会者は、ファシリテーターとしての役割が求められます。また、協議が活性化すればするほど、より多くの意見がでるため、それを効果的にまとめることは難しくなります。

グループ協議の際に、グループ内でキーオピニオンの案を考えることで、グループ内での協議の視点を絞り込むことができます。さらに、全体会でグループごとのキーオピニオンの案を発表すれば、全体会のまとめがとても進めやすくなります。

授業研究会の成果を明確にするためには、協議後に今後の授業改善についての実践事項をまとめて示すことが大切です。例えば、教科内での共通実践事項や学年部での共通実践事項などを具体的に定めて、一定期間で取り組むことでその成果を確認することができます。数ヵ月後に、授業改善報告会などを開催すると、さらに効果的です。

8 授業研究会の評価について

- 8 授業研究会後の動きについて選択してください。(複数選択可)
- A 直後にアンケート調査を行い、今回の成果と課題を調査する。
 - B 一定期間後にフォローアップ調査を行い、授業実践に役立ったかを調査する。
 - C 授業実践報告書を作成し、授業改善の状況についての報告会を行う。
 - D その他 (_____)

授業研究会を評価し、その後の改善につなげることが大切です。